

認知症患者の行動・心理症状 に対する高照度光療法の効果

ふじ	き	りょう	つぼ	うち	けん	かき	はら	きょう	すけ
藤	木	僚	坪	内	健	笠	原	恭	輔
さ	とう	みき	くら	まし	しん	やま	だ	とも	ひろ
佐	藤	幹	倉	増	伸	山	田	智	浩
なか	しま	はな	なか	しま	まゆ	ます	もと	のり	こ
中	島	花	中	嶋	眞由美	栞	本	典	子
お	ち	せい	こ						
越	智	斉	子						

キーワード：認知症，高照度光療法，行動・心理症状，概日リズム

要 旨

当院入院中の行動・心理症状（BPSD）を呈する認知症患者10名に対し高照度光療法を行った。被験者はアルツハイマー型認知症5名，血管性認知症2名，レビー小体型認知症1名，前頭側頭型認知症2名であった。5000～10000ルクスの照射光を朝食時間の30分間照射し，BPSD評価としてDementia Behavior Disturbance Scale（DBDスケール），Neuropsychiatric Inventory Brief Questionnaire Form（NPI-Q），睡眠評価として，Pittsburgh Sleep Quality Index（PSQ-I），睡眠日誌を用いて1週間の照射前期間と2週間の治療期間で評価した。その結果，NPI-Qと睡眠潜時で有意な改善を認めた。光療法は侵襲が少なく簡便に行える介入方法であり，概日リズム障害の改善が入院を要する認知症患者のBPSDに有用と考えられた。

はじめに

認知症は近時記憶障害や遂行機能障害などの中枢症状によって特徴づけられる疾患である。当院は2015年10月1日に認知症疾患医療センター（地域型）が設置され，そのうち認知症と診断され入院に至った症例の殆どは易怒性，徘徊，睡眠障害

といった行動・心理症状（behavioral and psychological symptoms of dementia: BPSD）をもつ患者であった。現在，BPSDに対しては，アセチルコリンエステラーゼ阻害薬やNMDA受容体阻害薬が第一選択薬として推奨されているが，その適応はアルツハイマー型認知症（Alzheimer-type dementia: ATD）など一部の疾患のみであり，実際は対症療法的に向精神薬を使用する頻度が高い。一般に，認知症は高齢になればなるほどその罹患率は上昇し，加齢に伴う身体機

Ryo FUJIKI et al.

社会医療法人正光会 松ヶ丘病院

連絡先：〒698-0041 益田市高津4丁目24-10

社会医療法人正光会 松ヶ丘病院